「フランスの教育者マリ・パップ＝カルパンティエ研究を通した男女平等・ジェンダー平等の地平」

法文学部　教授　金山　富美

世界初のパリテ民主主義国家であるフランスは、今なお様々な分野で平等社会の実現を目指してやまない。就いては男女平等・ジェンダー平等を目指すためのもっとも重要な要素の一つが教育問題であることは言うまでもなく、内実ともに平等な教育があってこそ真に考える力は醸成され、そこで獲得された自己発見・自覚が個々人を創り、それが社会を構成していく。

金山研究室では、フランス公教育史において最も大きな壁であった女子教育の脱宗教化と科学教育の推進等の点において、教育改革を実質的な部分で支えた19世紀後半の女性教育者マリ・パップ＝カルパンティエの業績を掘り起こし、その著作活動、思想に関する研究に取り組んでいる。

この女性教育者の活動と思想は、日本でもよく知られたルイーズ・ミシェルなどパリ・コミューンの女性活動家の運動とも有機的な関係をもち、さらにその後のフランスにおける教育の民主化・脱ジェンダー化の道筋を照らしている。

マリ・パップ＝カルパンテイエ執筆の各種教科書。右は『動物学』中の挿絵。
（彼女が執筆した教科書は学校だけでなく家庭用教本としても用いられた）